

執筆：SecurityScorecard 中村 悠

編集：SecurityScorecard 中島 朝可・橋本 詩保

【事例から知る】 SecurityScorecard の「サプライチェーン リスク マネジメント」への活用

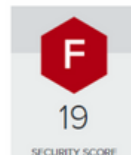
以前書いたブログで、SecurityScorecard が提供する“セキュリティ リスク レイティング”は、「サプライチェーン リスク マネジメント」を実現するソリューションの選択肢の1つだという説明をしました。

自社だけでなく、関連企業や取引先企業まで含め、セキュリティを管理するために必要なことは、『サプライチェーン全体のセキュリティ面での可視化/現状把握』です。

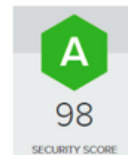
“セキュリティ リスク レイティング”の提供価値として、以下の2点がまず挙げられます。

1. 利用者は、各組織のドメイン名を入れるだけで他組織のセキュリティの態勢が数値化して把握できる点

▼レイティングが低い企業



▼レイティングが高い企業



2. 複数の組織を比較したい場合には、横並びでセキュリティ態勢の比較が可能な点



	取引先A	取引先B	取引先C	関連企業Z	関連企業Y	関連企業Z
Overall Score	C 75	A 97	A 91	B 89	B 81	C 73
FACTORS						
Network Security	75	97	91	89	81	73
DMZ Health	73	99	90	90	90	88
Outgoing Connections	46	100	90	90	85	89
Endpoint Security	63	93	100	100	71	67
IP Reputation	100	100	100	100	100	100
Application Security	94	96	90	92	86	84
Cable Score	100	100	100	100	100	100
Header Checks	100	100	100	100	100	100
Information Leak	100	100	100	100	100	100
Secure Engineering	100	100	100	100	100	100

このブログでは、もう一歩踏み込んで、具体的に実際のSecurityScorecardのお客様が、“セキュリティ リスク レイティング”をどのように活用しているかを紹介します。

続きを見たい場合は

メーカーBlog

[HTTPS://SECURITYSCORECARD.COM/SUPPLY-CHAIN-RISK-MANAGEMENT-CASE-STUDY-JP](https://securityscorecard.com/supply-chain-risk-management-case-study-jp)

